

国公立大学の特別支援学校教員養成課程における病弱者の教育課程及び指導法に関するシラバスの分析

——精神疾患及び心身症に焦点をあてて——

半田 健¹・肥後祥治²

Analysis of Descriptions of Curricula and Teaching Methods for People with Health Impairment Written in Syllabi for the Training Course for Special Needs School Teachers in National and Public Universities

——Focusing on Mental Disorders and Somatic Symptom Disorders——

Ken HANDA¹ and Shoji HIGO²

I 問題と目的

「病弱」とは、医学的な用語ではなく、病気のため継続して医療や生活規制を必要とする状態を示す用語であり、「身体虚弱」とは、病気にかかりやすいため継続して生活規制を必要とする状態を示す用語である（国立特別支援教育総合研究所，2017）。また、学校教育法施行令第22条の3では、「病弱者」の障害の程度を「慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの」、「身体虚弱者」の障害の程度を「身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの」と示している。

日下（2015）は、全国病弱虚弱教育研究連盟及び全国特別支援学校病弱教育校長会が実施している全国の特別支援学校（病弱）及び病弱・身体虚弱特別支援学級に在籍する児童生徒の病類調査を用いて、病弱児の在籍状況の経年変化を病類群毎に整理している。その結果、「心身症などの行動障害（精神疾患を含む）」の児童生徒の在籍者数が他の病類群の児童生徒と比べてもっとも多いことと、「心身症などの行動障害（精神疾患を含む）」の児童生徒の在籍者数が増加傾向にあることを指摘している。特別支援学校（病弱）における精神疾患や心身症（以下、精神疾患等とする）の児童生徒数の増加については、他の研究においても指摘されている。八島・栃真賀・植木田・滝川・西牧（2013）は、全国の特別支援学校（病弱）を対象に、精神疾患等や不登校経験のある児童生徒に焦点をあてた調査を実施している。その結果、特別支援学校（病弱）に在籍する全児童生徒数における精神疾患等の児童生徒の総数は、平成14年度から平成20年度までの6年間で約1.5倍に増加していることと、小学部1・2学年の低学年層においては約3倍に増加していることを明らかにしている。田口・橋本・川池（2013）は、全国の特別

¹ 宮崎大学教育学部 ² 鹿児島大学教育学系

支援学校（病弱）を対象に、教員が児童生徒に実施している指導・支援について調査を行っている。その結果、近年における各疾患・障害種別の児童生徒の増減傾向に関して、精神疾患の児童生徒が「著しく増えている」と回答した調査対象校は32.8%であり、身体疾患や重度重複障害の児童生徒と比較してもっとも多かったことを示している。以上より、特別支援学校（病弱）及び病弱・身体虚弱特別支援学級において、精神疾患等の児童生徒数の増加と、それに伴って精神疾患等の児童生徒に対する指導・支援の必要性や重要性が年々増加していると推測される。

田口ら（2013）は、特別支援学校（病弱）の教員が、身体疾患や重度重複障害の児童生徒と比べ、精神疾患の児童生徒に対する指導・支援に困難を感じていることを明らかにしている。その理由として、「精神面での配慮を要する」や「年々その症状の出現が複雑になっていて関わり方が難しくなっている」等の「生活指導」に関することと、「病状の個人差が大きい」や「症例が多岐にわたる」等の「個人の理由」に関することが多く挙げられている。これらのことから、田口ら（2013）は、今後、精神疾患の児童生徒に対する指導・支援を充実させるために、教員へのスーパーバイズ機能をもつ医療機関等との連携の在り方の検討と、具体的な対応方法や子ども理解に関する研修によって教員の専門性の向上が必要であると指摘している。

田口ら（2013）の指摘の通り、現時点で精神疾患等の児童生徒の指導・支援にあたっている教員に対して、今後、指導・支援の充実に向けた取り組みがさらに必要となるであろう。一方で、将来、精神疾患等の児童生徒に指導・支援を行う可能性がある教員養成課程の学生に対しても、精神疾患等に関する基礎的な知識の修得が必要であることは論を俟たない。

赫多・森山・日下・新平（2016）は、特別支援学校教諭免許状における病弱領域の免許状を取得するために必要な「教育課程及び指導法に関する科目」に焦点をあて、大学学部段階の講義のシラバスを対象に、講義内容の調査を行っている。この調査では、国公立大学における平成26（2014）年度の病弱者の教育課程及び指導法に該当する講義のシラバスに記載されている語句を収集し分析している。その結果、精神疾患等に関する語句を記載しているシラバスの割合は、「心身症（の子ども）」が17.1%、「精神疾患」が8.6%、「摂食障害（の子ども）」が2.9%、「心の病気」が2.9%であったことを明らかにしている。このことから、赫多ら（2016）は、大学学部段階の講義では、増加傾向にある精神疾患等の児童生徒に関する内容があまり扱われておらず、必ずしも特別支援学校（病弱）に在籍している児童生徒の実態に合ったものではないことを指摘している。

赫多ら（2016）は、「精神疾患」や「心身症」といった精神疾患等に関する各語句を記載しているシラバスの割合を明らかにすることで、大学学部段階の講義における精神疾患等の児童生徒に関する内容の扱いに言及している。一方、赫多ら（2016）では、1つの大学が病弱者の教育課程及び指導法に該当する講義を複数開講していることや、1つのシラバスに精神疾患等に関する語句が複数記載されている可能性があることから、精神疾患等の児童生徒に関する内容を講義で扱っている大学の割合までは言及することができていない。精神疾患等の児童生徒に関する内容を講義で扱っている大学の割合を明らかにするためには、精神疾患等に関する各語句の記載状況を大学ごとに分析する必要がある。これによって、大学学部段階の講義と特別支援学校（病弱）に在籍している児童生徒の実態における合致をより明確にすることができる。と考える。

また、赫多ら（2016）は、精神疾患等の児童生徒に対する指導・支援について分析を行っていない。この理由として、赫多ら（2016）が、病弱者の教育課程及び指導法に該当する講義内

容を広く明らかにすることを目的としており、精神疾患等の児童生徒に焦点化していなかったことが挙げられる。森山（2016）は、特別支援学校（病弱）の教員 32 名を対象に、精神疾患等の児童生徒の教育的ニーズについて調査を行っている。その結果、「心理」、「社会性」、「学習」、「身体」、「学校生活」、「自己管理」の 6 つのカテゴリーが抽出され、特に小学部から高等部までのいずれの教員も「心理」に関する教育的ニーズが高いと感じていることを明らかにしている。同様に、心理面に教育的ニーズを抱える病弱の児童生徒に対して、心理的ケアを中心とした指導・支援の重要性が指摘されている（平賀・尾形，2013；森・田中，2014）。一方、田口ら（2013）は、特別支援学校（病弱）の教員や関係する医療スタッフが、精神疾患の児童生徒に対して心理的ケアの手法を意識的に導入しているケースは未だ少ないことから、その必要性を指摘している。これらのことから、大学学部段階の講義においても、精神疾患等の児童生徒に対する指導・支援として心理的ケアに関する内容を扱うことが必要であると考えられる。

以上より、本研究は、国公立大学の学部段階における病弱者の教育課程及び指導法に該当する講義のシラバスを対象に、精神疾患等の児童生徒に関する内容の扱いについて明らかにする。また、精神疾患等の児童生徒に必要な指導・支援である心理的ケアに関する内容の扱いについても明らかにする。

II 方法

1. 調査対象

調査対象となる大学は、赫多ら（2016）を参考に、「特別支援教育資料（平成 28 年度）」（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課，2017）の「特別支援教育関係教員養成大学一覧（1）特別支援学校教諭免許状の課程認定を有する大学一覧 通学課程」から抽出した。平成 28 年度 5 月 1 日現在、一種免許状の課程認定を有する国公立大学は 55 校であり、そのうち「病弱者」の教育領域の認定を受けている国公立大学は 51 校であった。さらに本研究は、大学学部段階の講義のシラバスを調査するため、大学院修士課程や特別支援教育（特別）専攻科を調査対象から除外した。その結果、本研究の調査対象となる国公立大学は 50 校であった。

2. 調査方法

調査は 2 回に分けて実施された。調査期間として、1 回目の調査を 2017 年 8 月から 10 月まで実施し、2 回目の調査を 2017 年 12 月に実施した。1 回目の調査は、第一筆者と第二筆者が、各大学のホームページに掲載されているシラバス検索システム等を用いて、病弱者の教育課程及び指導法に該当する講義のシラバスを収集した。2 回目の調査は、第一筆者が、1 回目の調査で得られたシラバスの内容について、1 回目と同様の方法を用いて確認を行った。収集されたシラバスは、すべて平成 29（2017）年度の講義であった。

3. 分析方法

（1）精神疾患等の児童生徒に関する内容の扱い：収集されたシラバスを対象に、各大学における精神疾患等の児童生徒に関する内容の扱いを分析した。分析は、シラバスの「概要」、「主旨」、「主題」、「目的」、「ねらい」、「目標」、「到達目標」、「達成目標」、「授業計画」に記載されている語句から、赫多ら（2016）を参考にして精神疾患等に関する語句の検索を行った。検索

結果を基に、精神疾患等に関する各語句を記載しているシラバスの集計と、精神疾患等の児童生徒に関する内容を講義で扱っている大学の集計を行い、それぞれの割合を算出した。

(2) 心理的ケアに関する内容の扱い：収集されたシラバスを対象に、各大学における心理的ケアに関する内容の扱いを分析した。分析は、シラバスの「概要」、「主旨」、「主題」、「目的」、「ねらい」、「目標」、「到達目標」、「達成目標」、「授業計画」に記載されている語句から、森山(2016)や平賀・尾形(2013)、田口ら(2013)を参考にして心理的ケアに関する語句の検索を行った。しかし、各大学のシラバスに記載されている心理的ケアに関する語句は様々であった。そのため、心理的ケアに関するカテゴリーを作成し、心理的ケアに関する各語句に関連するカテゴリーに分類した。分類結果を基に、心理的ケアに関するカテゴリーに分類された各語句を記載しているシラバスの集計と、心理的ケアに関する内容を講義で扱っている大学の集計を行い、それぞれの割合を算出した。

4. 倫理的配慮

収集したデータは、各大学のホームページより一般公開されているものに限定した。また、分析は、大学名や担当教員名といった個人を特定する情報を除外して実施した。

Ⅲ 結果

1. 調査対象

調査対象となった50大学の学部・学群のうち、シラバスを収集できなかった大学は2校であった。その理由として、1校はホームページにシラバスを掲載していなかった。もう1校は、病弱者の教育課程及び指導法に該当する講義を開講していなかった。また、シラバスに「概要」や「授業計画」といった具体的な講義内容を記載していない大学が2校あった。本研究では、具体的な講義内容を分析する必要があったため、この2校も調査対象から除外した。さらに、病弱者の教育課程及び指導法に該当する講義を複数開講している大学が6校あり、うち1校は該当する講義を3講義開講していた(Table 1参照)。その結果、本研究では46大学の53講義のシラバスを分析対象とした。

2. 精神疾患等の児童生徒に関する内容の扱い

精神疾患等に関する語句の集計結果をTable 1に示した。精神疾患等に関する語句として「心身症」、「精神(的)疾患」、「心の病気・心の病」、「摂食障害」、「統合失調症」、「PTSD・トラウマ」が収集された。各語句のシラバスの記載状況は、「心身症」が11講義(20.8%)、「精神(的)疾患」が5講義(9.4%)、「心の病気・心の病」が4講義(7.5%)、「摂食障害」が2講義(3.8%)、「統合失調症」が1講義(1.9%)、「PTSD・トラウマ」が1講義(1.9%)であった。また、精神疾患等の児童生徒に関する内容を講義で扱っている大学は、19校(41.3%)であった。

3. 心理的ケアに関する内容の扱い

心理的ケアに関する内容の扱いについて、先述の通り、各大学のシラバスに記載されている心理的ケアに関する語句が様々であったため、心理的ケアに関するカテゴリーを作成した。心理的ケアに関するカテゴリーは、「心理的ケア全般」、「ストレス・マネジメント」、「心理

Table 1 精神疾患等に関する語句の集計結果

大学	講義	精神疾患等に関する語句					
		心身症	精神(的)疾患	心の病気・ 心の病	摂食障害	統合失調症	PTSD・トラウマ
1	1						
2	2	○					
3	3						
4	4						
5	5						
6	6						
7	7						
8	8						
9	9						
10	10						
11	11						
	12						
12	13						○
13	14	○			○		
14	15		○				
15	16	○			○	○	
	17						
16	18	○					
17	19						
18	20			○			
19	21			○			
20	22						
21	23						
22	24						
23	25						
24	26	○					
25	27			○			
26	28						
27	29						
	30	○					
28	31						
29	32						
30	33	○					
	34						
	35						
31	36						
	37						
32	38	○	○				
33	39	○					
34	40		○				
35	41						
36	42	○					
37	43						
38	44						
39	45						
40	46			○			
	47						
41	48						
	49		○				
42	49		○				
43	50	○	○				
44	51						
45	52						
46	53						
計(割合)		11 (20.8)	5 (9.4)	4 (7.5)	2 (3.8)	1 (1.9)	1 (1.9)

※精神疾患等の児童生徒に関する内容を講義で扱っている大学には列に影をつけている

Table 2 心理的ケアに関するカテゴリーと分類された語句

心理的ケアに関するカテゴリー	分類された語句
心理的ケア全般	心理的に不安定な病弱児への対応、心理的支援、心理特性への理解と配慮、心のケア、教育的・心理的配慮、心理的なケア・サポート、心理的理解と支援、心理・教育的対応、心へのアプローチ方法、心理面での配慮事項、心理社会的課題とアプローチ、心理的特性や症状をふまえた指導内容・方法
ストレス・マネージメント	ストレス、ストレス・マネージメント、ストレス対処、ソーシャルサポート、心理的ストレス、ストレス軽減法
心理的安定	心理的安定
カウンセリング	カウンセリング

的安定」、「カウンセリング」であった。各カテゴリーに分類された語句を Table 2 に示した。

心理的ケアに関するカテゴリーの分類結果を Table 3 に示した。各カテゴリーに分類された語句のシラバスの記載状況は、「心理的ケア全般」が 13 講義 (24.5%)、「ストレス・マネージメント」が 6 講義 (11.3%)、「心理的安定」が 4 講義 (7.5%)、「カウンセリング」が 2 講義 (3.8%) であった。また、心理的ケアに関する内容を講義で扱っている大学は、20 校 (43.5%) であった。

IV 考察

1. 精神疾患等の児童生徒に関する内容の扱い

本研究は、国公立大学の学部段階における病弱者の教育課程及び指導法に該当する講義のシラバスを対象に、精神疾患等の児童生徒に関する内容の扱いについて明らかにすることを第 1 の目的とした。本研究の分析対象は、46 大学の 53 講義のシラバスであった。分析の結果、各大学の精神疾患等に関する各語句のシラバスの記載状況が示された。本研究の結果は、「心身症」、「精神(的)疾患」、「心の病気・心の病」、「摂食障害」をシラバスに記載している割合が、赫多ら (2016) よりも高いものであった。また、赫多ら (2016) では記載されていなかった「統合失調症」や「PTSD・トラウマ」に関する語句が、新たに記載されていると確認された。これらのことから、本研究で用いた平成 29 (2017) 年度のシラバスは、赫多ら (2016) で用いた平成 26 (2014) 年度のシラバスよりも、精神疾患等の児童生徒に関する内容の扱いが増加していると明らかにされた。また、本研究は、精神疾患等に関する各語句の記載状況を大学ごとに分析したことで、半数近い大学が精神疾患等の児童生徒に関する内容を講義で扱っていると明らかにした。今後は、特別支援学校 (病弱) 及び病弱・身体虚弱特別支援学級に在籍している児童生徒の実態に合致した指導・支援を実施可能な教員をより多く養成していくためにも、精神疾患等の児童生徒に関する内容を講義で扱う大学のさらなる増加が望まれる。

2. 心理的ケアに関する内容の扱い

本研究は、国公立大学の学部段階における病弱者の教育課程及び指導法に該当する講義のシラバスを対象に、精神疾患等の児童生徒に必要な指導・支援である心理的ケアに関する内容の扱いについて明らかにすることを第 2 の目的とした。分析の結果、心理的ケアに関する語句は、「心理的ケア全般」、「ストレス・マネージメント」、「心理的安定」、「カウンセリング」といっ

Table 3 心理的ケアに関するカテゴリーの分類結果

大学	講義	心理的ケアに関するカテゴリー			
		心理的ケア全般	ストレス・ マネージメント	心理的安定	カウンセリング
1	1				
2	2				
3	3				
4	4				
5	5				
6	6				
7	7	○			
8	8				
9	9	○	○		
10	10	○			
11	11				
12	12			○	
12	13	○			
13	14	○			
14	15				
15	16				
15	17				
16	18				
17	19	○	○		○
18	20				
19	21				
20	22			○	
21	23			○	
22	24				
23	25	○			
24	26	○	○		
25	27				
26	28				
27	29				
27	30	○			
28	31				
29	32				
30	33				
30	34		○		
30	35				
31	36				
31	37				
32	38		○		
33	39	○	○		
34	40				
35	41				
36	42	○			
37	43	○			
38	44				○
39	45				
40	46				
41	47				
41	48	○			
42	49			○	
43	50				
44	51				
45	52				
46	53				
計 (割合)		13 (24.5)	6 (11.3)	4 (7.5)	2 (3.8)

※心理的ケアに関する内容を講義で扱っている大学には列に影をつけている

たカテゴリーに分類された。本研究では、「心理的ケア全般」に次いで「ストレス・マネジメント」に分類された語句がシラバスに多く掲載されていた。小島（2007）と森・田中（2014）は、病弱の児童生徒の心理的負担を軽減する方法について、これまで主にストレス・マネジメントが取り上げられていることを指摘している。本研究の結果、大学学部段階の講義においても、小島（2007）と森・田中（2014）の指摘と同様の傾向があると示された。また、「心理的安定」については、シラバスの内容を確認すると、自立活動との関連で記載されている場合がほとんどであった。このことから、「心理的安定」がシラバスに多く掲載されていた理由として、自立活動の指導内容である「心理的な安定」との関与が考えられる。最後に、本研究では、半数近い大学が精神疾患等の児童生徒に必要な指導・支援である心理的ケアに関する内容を講義で扱っていると明らかにした。一方、精神疾患等の児童生徒に対する指導・支援は、方法や内容等の教育情報が蓄積されておらず、経験知の積み上げが喫緊の課題である（八島ら、2013）。そのため、大学には、精神疾患等の児童生徒に対する指導・支援について講義で扱うことはもちろん、事例研究を通じた効果的な指導・支援の蓄積が求められるだろう。

3. 今後の課題

本研究で得られた結果は、シラバスに記載されている語句を分析したものであった。大学のシラバスは、概要や授業内容等を詳細に示した授業計画であるが、シラバスに記載がない事項でも実際の講義では内容として含まれていることも十分考えられる（赫多ら、2016）。そのため、本研究で分析対象とした講義は、シラバスに記載がないものの、精神疾患等の児童生徒に関する内容や心理的ケアに関する内容を扱っている可能性があることに留意すべきである。また、本研究は、病弱者の教育課程及び指導法に該当する講義のシラバスを調査対象とした。しかし、各大学では、特別支援学校教諭免許状における病弱領域の免許状を取得するために必要な科目として「心理・生理・病理に関する科目」も開講されており、この科目で精神疾患等の児童生徒に関する内容や心理的ケアに関する内容を扱っている可能性もある。今後、国公立大学の病弱者に関する講義内容をより詳細に明らかにするためには、「心理・生理・病理に関する科目」についても調査する必要があると考える。

引用文献

- 平賀健太郎・尾形明子（2013）第5章 病弱．井澤信三・小島道生（編），障害児心理入門（第2版）．ミネルヴァ書房，104-120.
- 赫多久美子・森山貴史・日下奈緒美・新平鎮博（2016）大学の特別支援学校教員養成課程における病弱領域の「教育課程及び指導法に関する科目」の講義内容に関する一考察．育療．59, 44-52.
- 小島道生（2007）病弱児の心理学的研究に関する一考察 日本における近年の研究動向．長崎大学教育学部—教育科学—, 71, 39-47.
- 国立特別支援教育総合研究所（2017）病気の子どもの教育支援ガイド．ジアース教育新社．
- 日下奈緒美（2015）平成25年度全国病類調査にみる病弱教育の現状と課題．国立特別支援教育総合研究所研究紀要, 42, 13-25.
- 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2017）特別支援教育資料（平成28年度）．

森 浩平・田中敦士(2014) 病弱児の抱える心理社会的問題に関する文献的考察. 琉球大学教育学部紀要, 85, 117-122.

森山貴史(2016) 精神疾患や心身症のある児童生徒の教育的ニーズに関する一考察—A 特別支援学校(病弱) 教員対象の調査を踏まえて—. 国立特別支援教育総合研究所研究紀要, 43, 45-56.

田口禎子・橋本創一・川池順也(2013) 特別支援学校(病弱) における教育的支援の現状に関する調査. 発達障害支援システム学研究, 12, 37-44.

八島 猛・栃真賀 透・植木田 潤・滝川国芳・西牧謙吾(2013) 病弱・身体虚弱教育における精神疾患等の児童生徒の現状と教育的課題—全国の特別支援学校(病弱) を対象とした調査に基づく検討—. 小児保健研究, 72, 514-524.